

令和6年度も残すところわずかとなりました。コミュニティ・スクールもスタートして3年が経過し、4年目を迎えようとしています。この間、各学校、学校運営協議会委員さん、地域学校協働活動推進員さんのご尽力により、「地域とともにある学校」に向けて着実に歩みを進め、「子ども達の豊かな学びや体験」に資する教育活動は年々増えてきています。改めて感謝申し上げます。

今回は推進員のみなさんから大変に好評を得た2月の研修会から得た学びとともに、今年度の振り返りを簡潔にまとめて記載しました。

よろしくお願い致します。

【地域の「その道のプロ」と教職員、子ども達の「やりたい!」を繋ぐ】

前回のスクラムでも紹介した長野県大町市立美麻小中学校コーディネーターで文科省CSマイスターとしても活躍中の前川浩一氏を講師としてお迎えした2月の研修会、事後のアンケートではほぼ100%の満足度とともに「今までで一番よかった」という声や推進員さん自身が「美麻を訪問してみたい」という声もいただきました。

<地域と学校の協働による授業創り>=社会に開かれた教育課程の実践

先生方が行う各教科での授業支援(我孫子の多くの学校)

↓

地域と学校の協働による授業(総合学習を中心とした美麻の実践)

森の授業(林業者、工芸家、猟友会) 民話・史跡(民話の会、文化財専門家、敬老会)

畜産と食(畜産農家、新聞記者、スーパー担当者) 地域課題探求からまちづくりの企画へ

地域かるたの制作 地域名産品の産業化等々 ※()は授業創りに携わった学校との協働者

どうして可能なのか?

- ・ グランドデザインや学校経営ビジョンで地域との協働が明確に
- ・ 地域の方と学校が育てたい子どもの姿を共有
- ・ 地域の方が学校や子どものことを理解し、自分事として協力
- ・ 子ども達も地域をよく知り、地域の方に心を開いている
- ・ コーディネーターが学校と地域をよく理解、地域の教育資源を知っている
- ・ 学校が内を開く→外に開くという考え方
- ・ コミュニティ(地域)ルームの設置

☆学校運営協議会委員や推進員と(管理職だけではない)先生方の関係作り
コミュニケーションの場、「やりたい!」を相談できる場

➡5月の研修会で先進地域の推進員(県アドバイザー)から学ぶ予定です。

◎前川氏から…「学びとは」

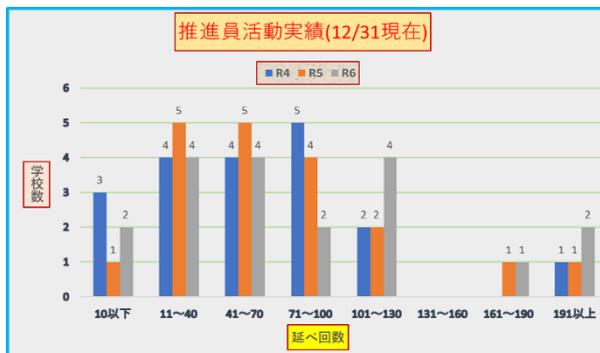
マネから始まるかもしれないけれど、マネをすることを目指すものではない。
自分たちの環境で、自分たちで考えて自分たちができることをすることが重要。
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の要は授業です。

研修会の様子

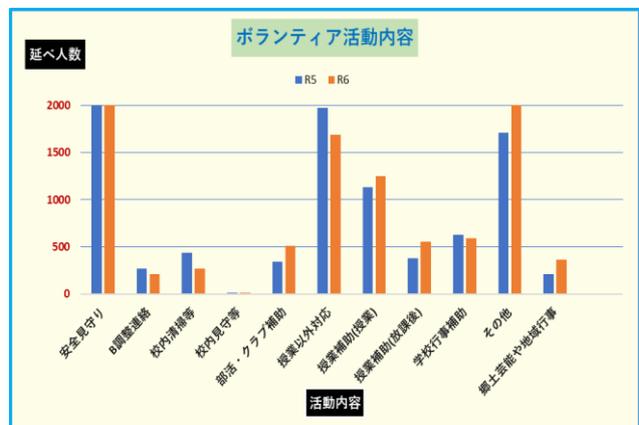


◆ 研修会の学びは、中学校区小中一貫カリキュラムの修正にも生かしてください。中学校区で育てたい理想の子ども像を Goal とするカリキュラム、そして、Goal を地域と共有、協働した授業で実現を目指していきましょう！

【今年度の成果を振り返る】



1校あたりの平均 R4→66.1 R5→71.7
R6→86.5



既に研修会でも示した資料ですが、今年度の推進員活動実績と教育活動支援ボランティア活動内容です。推進員のみなさんが年々学校との連携を深めている状況がわかります。教育活動支援だけではなく、今年度の重点の一つであった「日常的に授業を始めとした学校の教育活動に参加・参画して学校教育目標やビジョンがどのように反映されているかを確認する」「大人も子どもと一緒に学べる学校を目指す」に向けて動いている推進員さん、学校運営協議会委員さんも増えています。

また、教育活動支援ボランティアに、多くの方々にご参加いただきました。



特に子ども達の学力向上や家庭学習の習慣化に向けて、学校運営協議会の熟議を経て、放課後等の学習支援を定期的に行っている学校も増えています。

他にも多くの成果をあげた今年度ですが、何よりも担当が2月の学校運営協議会に参加させていただいた学校では、委員のみなさんが真に学校の経営パートナーとして当事者意識をもって子ども達のために次年度に向けて熟議されている、そんな会を目の当たりにして1年間を締めくくることができました。